

4・19 笑顔が戻った多治見人権擁護委員協議会総会

コロナの収束が見通せない中でしたが、講演会を交えた総会を開催しました。

総会も滞りなく終え、現職の市之倉小学校後藤佐恵子校長を講師にお招きし、「子どもを知る」というテーマで座談会形式の講演を行いました。学校訪問、SOSミニレター等こどもと接する機会の多い人権擁護委員にとって貴重な講話を聴き、その後、パネリストを中心に意見交流をしました。



市之倉小学校では、こどもたちにiPadを活用して「今日の心の天気は？」と問いかけながら、その子の心の内を知る手立てを講じています。「雨や曇り」と答えたこどもには、担任が、その理由を聞きながら指導に役立てられています。

コミュニケーション不足を言われる昨今ですが、校長先生のお考えは、コミュニケーションの仕方を知らないだけで、それを指導していけば、その能力は育つ、というものでした。毎朝、素直に自分の気持ちを伝えることで、先生や仲間とのコミュニケーションが深まっていくというお考えに深く共感しました。私たちの相談業務にも大いに役立つと思いました。

座談会で、参加者から「今までは、快晴だったのに、発言の指名をされて雷雨になりました。」と言われましたが、笑顔でお答えいただき、和やかな雰囲気の中、交流を進めることができました。やはり、委員が一堂に会しての会議は良いものだと思えて感じ、コミュニケーションの大切さも実感しました。

平和の意義が問われる今、お互いを分かり合い、つながりを深めることこそ、ささやかであっても、平和な世界への第一歩だと思います。小さな一歩、けれどもその積み重ねは、大きな一歩になっていく。私たち人権擁護委員は、その一端を担っていると思うのです。

笑顔のなか、新たな決意の出発となる総会と講演会でした。



笑顔見る 見せる喜び 風光る

